

平成19年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

1. プロジェクト名称	山陰地方における歴史・文化資源の発掘と活用に関する研究プロジェクト					
	(英訳名)	Research on excavating and vitalizing the historical and cultural resources in San'in Region				
2. プロジェクトリーダー	所属	法文学部	職名	教授	氏名	田中則雄
	現在の専門	国文学			学位	博士(文学)
3. プロジェクトの概要 ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②国際的な視野からプロジェクトの必要性・重要性・ユニークな点、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。 ① 山陰地方には、出雲大社やその関連の文化、たたら製鉄の史料や遺構など多くの歴史・文化資源が存在しており、島根大学をはじめとする研究機関等において調査研究が行われてきたが、現時点で未発掘のものも多く残っている。また従来の調査研究成果についても、研究者内部で流通するに留まっている部分が多く、地域住民に向けての公開などの取り組みも、個々の研究者やグループによって個別に行われているというのが現状である。 本プロジェクトは、山陰地域の歴史・文化資源の発掘、調査研究、及びその利活用の方法構築に向けての取り組みを、人文・社会科学系の研究者が共同で組織的に行うという新しい試みである。なお既に昨年度までに実施した法文学部山陰研究センターにおける研究プロジェクトによって得られた研究成果に基づきつつ発展を図るものである。 「ひと」「まち」「なりわい」をキーワードに設定し、過去の時代における山陰地域の人々の生き様を掘り起こし、具体的に描き出し、地域住民に向けて発信することを目標とする。まず出雲歌壇に由来する和歌作品、たたら製鉄、歴史人口等のテーマに沿って、従来の調査研究を一層深化させる。次にその成果の可視化に重点的に取り組む。データベースの作成、貴重史料のアーカイブ化、GIS を用いての視覚化などを進める。また初学者向けのリーフレット等の印刷物も作成する。更にこれらの成果物を使用しつつ実際に地域社会で歴史・文化資源を利活用するための方法構築に向けての研究を進め、また実践も試みる(展示会やワークショップなど)。 ② 山陰地方に豊富に存在する歴史・文化資源の発掘、調査研究からその利活用に至るまでの活動を、人文・社会科学系の研究者が分野横断的、組織的に行うのは初めての試みである。また調査研究の成果を、単に研究者に向けて公開するのではなく、一般の地域住民を重要な対象として意識し、地域での利活用という点を大きく打ち出し、そのための方法構築を課題とするのは、全く今までにない取り組みである。 ③ 法文学部山陰研究センターにおいて、2004～2006 年度の3カ年にわたり、歴史・文化資源の調査研究、IT を活用した地域振興に関する研究プロジェクトを実施してきた。本プロジェクトは、このような学部センターのレベルで築いてきた方法と研究成果を有機的に結合しつつ、全学的レベルのものに進展させようとするものである。特に人文・社会科学系研究者による学内合同プロジェクトは今までに例が少なく、今後の島根大学におけるこのような活動の典型となることを目指す。 また地域の行政、教育、産業等の各方面と、上記の利活用の面で協力関係を深めることを計画しているため、このことを通じて、人文・社会科学系の分野においても島根大学が地域において中心的役割を担うべきものであることを改めてアピールすることにつながると考えている。						
4. 本学の中期目標・計画との関係 山陰地域に存在する歴史・文化資源を発掘し、調査研究を経て、地域の行政、教育、産業等の各方面と連携しつつ住民の利活用につなげることは、島根大学の中期計画「地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究を推進する」ことに、正に合致している。						

5. 本研究に関係するこれまでの準備状況等 法文学部山陰研究センター研究プロジェクトにおいて 2004 年度から3カ年にわたって、「山陰地域伝存の古典籍資料に関する基礎的調査研究」(代表・蘆田)、「宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究」(代表・廣嶋)、「IT 活用による地域振興・産業創出に関する比較研究」(代表・野田)などの関連研究を実施してきた。これらの研究プロジェクトに参加した研究者が本プロジェクトに参加し、既に得られた調査研究成果やデジタル化の方法等関する実績を活かしつつ、新たな進展を図る。			
6. 配分経費 (単位:千円)			
平成(年度)	19		合計
配分予定額(千円)	5, 000		5, 000
7. プロジェクト推進担当者 平成19年度に限って記入してください。			
		計 11 名	
ふりがな(ローマ字) 氏 名(年齢)	所属部局(専攻など)・職名	現在の専門 学位	役割分担
(プロジェクトリーダー) たなかのりお(Tanaka Norio) 田 中 則 雄 (43)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学 博士(文学)	プロジェクトの総括、文学資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
あしだこういち(Ashida Kouichi) 蘆 田 耕 一 (61)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学 文学修士	文学資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
ようぎじゅんいち(Yougi Junichi) 要 木 純 一 (46)	法文学部(言語文化学科)・教授	中国文学 文学修士	文学資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
たけながみつお(Takenaga Mitsuo) 竹 永 三 男 (56)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学 博士(文学)	歴史資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
ひろしまきよし(Hiroshima Kiyoshi) 廣 嶋 清 志 (62)	法文学部(山陰研究センター)・教授	人口学 工学修士	歴史資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
さがらえいすけ(Sagara Eisuke) 相 良 英 輔 (63)	教育学部(共生社会教育講座)・教授	日本史学 博士(文学)	歴史資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
おびなたかつみ(Obinata Katsumi) 大 日 方 克 己 (49)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学 博士(史学)	歴史資源の調査研究、利活用方法の研究と実践
のだてつお(Noda Tetsuo) 野 田 哲 夫 (47)	法文学部(法経学科)・教授	経済情報論 経済学修士	文学・歴史資源の可視化、利活用方法の研究と実践
いいのきみお(Iino Kimio) 飯 野 公 央 (44)	法文学部(法経学科)・准教授	経済政策 経済学修士	文学・歴史資源の可視化、利活用方法の研究と実践
さくのひろかず(Sakuno Hirokazu) 作 野 広 和 (39)	教育学部(共生社会教育講座)・准教授	人文地理学 修士(文学)	文学・歴史資源の可視化、利活用方法の研究と実践
えげかずひろ(Ege Kazuhiro) 会 下 和 宏 (37)	ミュージアム・准教授	博物館学・考古学 学士(文学)	文学・歴史資源の可視化、利活用方法の研究と実践

8. 研究計画および達成目標

[平成19年度]

【計画概要】

まず文学資源として、出雲歌壇関係の和歌作品、山陰漢詩文壇関係の文献、本学附属図書館所蔵の堀文庫・大森文庫の蔵書を主たる対象として基礎的な調査研究を行う。また歴史資源として、たたら製鉄、近世・近代に行われた風土記研究、近世・近代における石見の人口、初代松江市長・福岡世徳の事績などに関わる史料を主たる対象として基礎的な調査研究を行う。文学・歴史ともに、調査結果のデータベース化を逐次進めつつ、デジタル画像化、GIS、図録、リーフレット作成などの手段によって可視化の作業を行う。そのうえで、これらの可視化された成果物を駆使しながら、地域住民を対象に、あるいは学校教育現場において、歴史・文化的資源を利活用する方法を研究し、実践的試みも行う。その際、地域の行政、教育、産業等との連携のあり方についても、実践を伴いながら方法構築を行う。

【研究項目】 研究項目には①、②、…の様に番号をつけて箇条書きしてください。

①文学資源の調査研究、可視化の方法の研究

②歴史資源の調査研究、可視化の方法の研究

③利活用方法の構築のための研究と実践

【達成目標】 対応する研究項目に対して第三者が本年度に達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。

本学附属図書館及び山陰地域の旧家等に所蔵する和歌（出雲歌壇）、漢詩（山陰漢詩文壇）、その他古典文学書籍について地域文化史的視点からの調査研究を行い、その成果をデータベース、デジタル画像、図録、リーフレット等により、効果的に可視化する。

山陰地域の旧家等に所蔵するたたら製鉄等の産業関連文書、偉人の事績等に関する歴史学資料について調査研究を行い、その成果をデータベース、デジタル画像、図録、リーフレット等により、効果的に可視化する。

可視化された成果物を駆使しながら、地域の行政、教育、産業等との連携のもと、地域住民を対象に、あるいは学校教育現場において、歴史・文化的資源を利活用する方法を具体的に提示し、実践的試みも行う。

9. 平成19年度経費明細 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。（単位：千円）

・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。

・経費は政策的配分経費(a)（今回配分された金額）とそれ以外の資金（学内経費、外部資金）とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。

・研究計画の事項ごとに設備備品、旅費、人件費、消耗品費などに分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。

・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意ください。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
設備備品費(書籍、カメラ付属品等)	①、②	450		450
国内旅費(島根県内、東京)	①、②、③	800		800
人件費	①、②、③	700		700
消耗品一式	①、②、③	600		600
その他(写真撮影・デジタル化費用)	①、②	1,950		1,950
その他(印刷費)	①、②	500		500
合 計		5,000	0	5,000

10. 研究終了後の高次研究プロジェクト(重点研究部門)への構想 図などで解りやすく示してください。

